

ケーススタディー:商標更新サービス

ファイザー社



ファイザー社：トムソンIP Management Services による商標更新プロセスの一元化および業務効率の向上とリスクの削減

ケーススタディー概要：製薬業界トップレベルの企業であるファイザー社は、着実に成長している商標ポートフォリオを管理しながら、自社のワークフロープロセスを合理化し、効率の向上、およびコストの削減を行っています。トムソンIP Management Services は、費用対効果と信頼性の高いソリューションを提供しています。

ファイザー社

ファイザー社は、世界でも最大級の研究開発型製薬企業であり、2005年の売上は513億ドルにもなります。世界的に著名な製品には、処方薬の「リピトール」、「バイアグラ」、「セレブレックス」、および「ゾロフト」が、また市販薬には、「リステリン」、「ベナドリル」、および「スタフェッド」があります。ファイザー社には、医療用医薬品、動物用医薬品、および消費者向けヘルスケア製品の3つの事業領域があり、その製品は150を超える国々で販売されています。

ファイザー社の製品ポートフォリオは、積極的な研究開発

プログラム、およびワーナー・ランバート社、パーク・デービス社、ファルマシア社を含む一連の買収によって成長しました。ファイザー社は、業界最大級の製薬研究開発組織であると公言しており、2005年には、何百というプロジェクトに74億ドルもの開発費用を投入しました。

最近では、ファイザー社では、さらに効率的な経営とコスト削減に全社で取り組んでいます。商標管理プロセスの一元化と合理化は、価値の高いブランドを保護し、さまざまな重要な成果をもたらすことにつながるイニシアティブの一つです。

ビジネス面での課題

精力的な研究開発プログラムと、補完的なビジネスを吸収合併してきた歴史が相まって、ファイザー社は世界最大級の製薬企業となりました。その成長をさらに効率良く管理するために、ファイザー社は最近、コスト削減、生産性向上、および知的財産権保護の強化のために、世界的なイニシアティブを推進しています。その一環として、多数のビジネスプロセスが見直されました。その結果、迅速に大胆に決断できる、より機動的な組織になり、研究開発や他のプロジェクトのためにさらに多くの資金を生み出すことができました。

40,000以上の有効な商標を持つファイザー社にとって、価値あるブランドの保護は非常に重要です。ファイザー社では、商標権侵害品の撲滅に関する世界的なイニシアティブを導入し、商標権管理に継続性と専門家による監視を追加しました。この分野における過ちは、企業にとって壊滅的なものになる可能性があるからです。最近、ファイザー社では、商標更新プロセスの一元化と合理化への取り組みも開始しました。その目標は、リスクや誤りを削減しながら効率性を大きく高めることでした。

ファイザー社は、2004年に複数の部門および外部の弁護士事務所に分散していた商標管理プロセスの統合を開始しました。商標調査、出願、更新、およびデータベース管理を統括的に行う知的財産グローバルサービス(IPGS)グループが創設されました。この部門は現在、米国ニューヨーク、ニュージャージー州モリス・ブレンズ、およびドイツのカールスルーエに事務所を置いています。

IPGSグループの設立に続いて、ファイザーは商標更新業務の一部をトムソンIP Management Services に移管しました。以前は、商標更新は外部の弁護士事務所へ委託していたものです。IPGSのシニアスペシャリストであるElvira Bruscke氏は、ファイザー社とトムソン IP Management Services間の関係を統括しています。Bruscke氏は、ファイザー社は2004年に商標ポートフォリオ管理業務をトムソン IP Management Servicesに移管し、現在では商標管理のみならず、その他のサービスもトムソン IP Management Services が行っています。

「トムソンIP Management Services には、我々のニーズすべてにすばやく、効率的に、見落としのない方法で対処できる態勢が整っています。」

Elvira Bruscke 氏
ファイザー社 知的財産グローバルサービスグループ シニアスペシャリスト



トムソン IP Management Servicesソリューション

Bruscke氏によれば、ファイザー社のドキュメンテーションに関する要求は非常に厳格です。「商標数の膨大さもさることながら、我々のオフィスは即座に対応しなければならぬ依頼を日常的に受けています。トムソン IP Management Servicesには、我々のニーズのすべてにすばやく、効率的に、見落としのない方法で対処できる態勢が整っています。」とBruscke氏は語っています。

トムソン IP Management Servicesは、ファイザー社に次のサービスを提供しています。

- 商標データの受け入れ、および各国関連法情報(IP Rules)に照らし合わせたデータファイルの検証
- 委任状および使用宣誓書の準備、および関連文書の追跡
- 更新および放棄の通知を含む各国代理人への指示の監視
- すべての通信・文書の記録、および不一致の解決
- 更新証の内容の確認、およびファイザー社への送信
- 予算立てのための商標維持概算費用の事前算出
- ファイザー社の代理として、指定された商標の更新手続

Bruscke氏は、商標更新業務の一元化は大きな利点をもたらしたと考えています。

「トムソン IP Management Services では、商標に関する専門家がファイザー社担当として配属されており、ポートフォリオを管理してくれています。連絡窓口となる担当が

決まっていることで、私の仕事もやりやすくなっています。また、我々の部門の人員が時間のかかる細かい仕事から解放されるので、組織にとってより重要な業務に集中できます。」とBruscke氏は述べています。

商標更新には複雑さが伴い、ファイザー社の商標ポートフォリオは膨大であることから、Bruscke氏は「トムソン IP Management Servicesの最大の利点は、どんな小さなことも見落とすことがないと信頼していただけることです。」と述べています。最近の吸収合併後に、合併された会社の一部の商標データが未入力、または誤入力されていたために、複数の商標更新手続の欠落があったことが発見されました。「トムソン IP Management Services では、包括的な各国関連法情報(IP Rules)と照らし合わせることで、これらを修正することができました。今後も更新の見逃しがないように、さまざまなチェック機能が設けられています。」とBruscke氏は述べています。

ファイザー社は、商標データベースに第三者との契約や係争関連文書を保存しておくなど、商標更新サービス以外にもトムソン IP Management Services からメリットを得ています。チームのすべてのメンバーは、意志の疎通が容易にでき、適切な商標管理を支援する情報にアクセスできるのです。

最後に

トムソン IP Management Services は、業務効率の向上とリスク削減のため一元化された知財システムを持つというファイザー社の目標の実現を支援しています。Bruscke氏は、これをトムソン IP Management Servicesのプロセスとインフラストラクチャーの功績であるとしています。サービスの質こそが、両者の関係を非常に価値の高いものにしていくと付け加えています。「トムソン IP Management

Services のファイザー社担当者は、我々がしばしば非常にすばやく対処する必要があることも含め、我々の商標およびユニークなニーズを理解してくれています。午前中に電子メールにて依頼したことが、その日のうちに処理されています。このような迅速な対処は、以前の環境では想像できなかったことです。」とBruscke氏はまとめています。

IP Management Services

トムソン・ロイター・グループ
トムソンコーポレーション株式会社

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル5F

Tel: 03-5218-6516

Fax: 03-5218-7840

Email: ipms.japan@thomsonreuters.com

Web: scientific.thomson.com/jp/ipms/

thomsonipmanagement.com

